

雑誌「新青年」総目次データベース

Database of *Shinseinen* Total Contents

プロジェクト代表者：八木 恵子（国際交流センター・教授）

YAGI Keiko (Center for International Exchange, Professor)

1. 目的

日本における探偵小説の移入と形成をたどり、それを日本近代現代文学史上に位置づけるための基礎作業として「総目次細目」をデータベース化することにある。特に昭和4年前後東京に開花した都市大衆文化とモダニズム、昭和11年以降の雑誌『新青年』総目次と掲載内容そのものの研究にある。『新青年』を発行していた博文館は、戦前、大橋財閥の傘下であり、日中戦争、その後の大戦時代に至るとともに、編集方針、掲載記事の傾向に変貌を強いられる。この両時代の『新青年』の編集方針と掲載内容の詳細に共同で研究に取り組むことで、昭和の大衆文化を主導していた文学、言論、都市東京、出版文化の一端を明らかにする。

2. 方法

方法は、データベース化の基礎作業と研究の2点にかかわる。研究においては、日本文学研究のみにとどまらず、海外の娯楽文学や読物、各種メディア、二つの大戦間、戦中時代の日本周辺の国際情勢や社会を理解する広い視野に立った研究法を示すことになる。さらにコンピューターを使ったデータベースの作成作業に具体的に携わることによって、これまでとは異なる研究分野と交流し、研究の可能性を広げる。

データベース化の基礎作業は、ファイルメーカーを用いて着手した。底本は、『昭和グラフィティ新青年読本』全一巻 作品社 1988年2月刊行 巻末228～336頁部分)とする。以下に1レコードあたりの内容、キーワード、具体例を記す。

対象箇所の総文字数（活字版）は20文字×35行×4段×110頁＝308,000。全項目概略28,800項目。

1レコードあたりの具体的内容：7個のキーワード [表題] [種目] [内容キーワード] [人名]
[発刊年月] [巻号数] [画像]

キーワード文字数：[表題] 15文字 [種目] 10文字 [内容キーワード] 25文字 [人名] 15文字
[発刊年月] 20文字（年号西暦併記） [巻号数] 15文字（巻号数は半角ハイフンつなぎ
創刊号 増刊号臨時増刊号等を記す）。

各項目の平均文字数：45文字。漢数字以外は半角とする。

画像：電子処理による目次（付録の目次を含む）部分のデータを最優先し、配分予算により、
挿絵、広告、表紙（付録の表紙を含む）を順次取り入れる。

1レコードの具体例：[表題] 懸賞当選作 「股から覗く」 [種目] 創作 [内容キーワード] 懸賞
当選作 選者江戸川乱歩、小酒井不木 [人名] 葛山二郎 [発刊年月] 昭和2（1927）年10月
[巻号数] 八-12（創刊号） [画像] 挿絵（賛）

3. 経過

平成17年度に、第一次新青年研究会代表鈴木貞美（日本国際文化研究センター教授）、第二次新青年研究会代表浜田雄介（成蹊大学文学部教授）と技術的方法論を協議し、3回にわたるワークショップを開催し、データベースの方針を検討した。

平成17年までに、データベース用のソフトを組み込みプラットフォームとするサーバを八木研究室に設置した。複数の端末でデータを組み込むテストを完了し、具体的なデータ打ち込みの作業にとりかかる段階にきている。雑誌『新青年』の復刻版（総額400万円）は2003年に全巻を完成したが、残念ながら埼玉大学はこれを所蔵していない。

『新青年』「総目次細目」は、申請者が調査執筆にあたり『昭和グラフィック新青年大全』（新青年研究会編 作品社1987年刊行1988年度大衆文学会研究部門賞受賞）巻末に掲載（大正9年～昭和11年）した。このデータベースの最終目標は、インターネット掲載と、他の雑誌（例えば「キング」や「婦女界」）の総目次の互換性におく。雑誌に掲載された画像、広告、写真は資料として貴重だが、雑誌の宿命として散逸している。雑誌「新青年」の原本を所蔵する図書館（神奈川近代文学館、国会図書館）においてもマイクロフィルム化され、色彩豊かな表紙や口絵に接する機会を奪われている。

雑誌「新青年」復刻版は、海外の大学からの購入も続いていると聞く。インターネットの時代にあつて、画像と一体になった検索データを広く開示することが必須である。

雑誌「新青年」の(1)復刻版の所蔵、(2)豊富な画像、(3)検索に適したレコード表示、(4)他の雑誌記事検索との互換、(5)データベースソフトとプラットフォーム、サーバの再検討、(6)インターネット掲載とその管理、を今後の目標としていく。

4. 平成18年度の成果

(1) 配分された予算の多くを雑誌「新青年」復刻版、大正15年分（14冊合本7冊）、大正12年（13冊合本6冊）大正10年（13冊合本6冊）の購入（486,000円 全体の10分の1）にあてた。雑誌「新青年」は、冊数・購入経費とも大部となる。平成18年から教養学部杉浦晋准教授と購入計画を立て、協力体制に入った。

(2) 画像をデータ化するための準備に取りかかり、一部データ化に着手した。

(3) 研究を進める上で、大衆小説研究を専門とする他機関との協力体制の必要があり、ミステリ文学資料館（光文シェラザード文化財団運営）館長の権田萬治氏、日本のミステリ小説の韓国語翻訳家ユ・ウンキョン氏とワークショップを2回開催した。東アジア地域における探偵、ミステリ小説の執筆、読者層を確認できた。